

神戸医療福祉専門学校中央校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和6年6月15日実施】

令和5年度自己点検自己評価(令和5年4月1日～令和6年3月31日)による

評価委員氏名【 】

項目	点検項目	自己評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1-1 理念・目的・育人人材像は、定められているか	4	教育理念・目的・養成人材像は、明文化されており、事業計画に目標・方法等を具体化している。会議や研修等においては、理念等の徹底をしている。常に業界とのコミュニケーションを図り、産学協同での教育を心がけている。業界が求める人材像を明確にするとともに、教科目標・教育課程・授業計画等の策定に活用している。事業計画では「地域連携」「業界との連携」を掲げ、特徴ある教育プログラムを構築し、変化する社会に対応するために、中・長期の事業計画を策定し、毎年見直しをしている。今後は、教育をとり巻く環境変化や学生の質的变化に対応するため、地域における活動や業界との連携を深めつつ、カリキュラムにはキャリア教育の実践を盛り込んだ内容を加え、さらなる職業人教育の質を高めていく。	職業人教育を通して社会に貢献することをミッションとし、3つの建学の理念(実学教育・人間教育・国際教育)の実践、4つの信頼(学生、保護者からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼)を得られる様に学校運営する中で、各業界のニーズに即した人材育成を行っている。	4	・高等学校からの信頼を得る要素は、次の4点です。1.学生の立場に立った指導 2. 募集ルールの遵守 3. 安全・安心の担保 4. キャリア教育の確立 すべて説明頂いた中で充足されていました。 ・各業界とのコミュニケーションを密にし、教育を行っておられます。国際化に向けて英会話なども充実させると見地が広がると思います。 ・異議なし ・今後も信頼を得る様に努力がされている。 ・特になし
	1-1-2 育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか					
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを重要視している。運営方針は学校事業計画書に理念、目標、具体的な計画等と関連づけて明文化している。	事業計画の構成は組織目的(普遍的に学校を目指す開校、組織運営の目的)、運営方針(中期的に組織として目指す方針)、実行方針(中期的な組織の運営方針を実現する為の単年度の方針)、定量的目標(入学者・教育成果<中退防止・国家試験合格数>・就職率等)、定性的目標(人材育成や組織のあり方等単年度目標)、実行計画(その方針を実現させる為の具体的な計画)、組織図、職務分掌、部署ごとの計画・スケジュール、意思決定システム、収支予算書(5か年)で毎年作成している。	4	・情報の共有と共通理解がしっかりと図られていると感じました。 ・理念や方針を分かりやすく明文化されています。全職員で定期的にくり返し理念の復唱などして宿し入れることが大切だと思います。 ・異議なし ・特になし
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか		毎年、業界のニーズに対応した事業計画・運営方針を作成するように努め、明文化された事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての教職員が理解した上で各業務に取り組んでいる。			
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	運営のための組織図・職務分掌・会議の目的と主催者(決定権者)は事業計画に含まれており、会議・研修で共有している。会議、委員会等の議事録は開催毎に作成し、関係者に共有をしている。組織運営のための規則・規定を設け、運用に不足がある場合は、運営会議で検討し改正を行っている。	職員の職場に関するアンケートやストレスチェックを実施。職場安全推進委員会も発足し、職場環境の整備にもあたっている。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けて職場環境の改善にも着手している。学校運営に必要な組織体制は整っており、今後も各部署間連携を活性化し可視化することで新たな方向性も模索していきたい。	4	・職員のケアにも充分に配慮されていることも行き届いていると感じました。 ・職場改善の為のアンケートは有意義に思います。開示とフィードバックが更に大切です。 ・異議なし ・特になし ・職員からの意見を取り入れられるシステムが作られている。
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか		人事・給与に関する制度も就業規則に明示されている。			
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議の位置づけについても明記されている。意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視し会議毎に参加者は選抜され、その中で主催者に権限は委譲されている。	月に一回、運営会議・全体会議・学科・広報会議を実施。また目的に合わせて随時会議を開催している。問題解決サイクル(問題発見⇒問題分析＋仮説立案⇒対策立案⇒実行⇒検証)を回していることが意思決定プロセスを効果的に活用できている。また学校運営を円滑に進めるに、教職員のスキルに応じた各種研修プログラムに積極的に参加し、チーム組織全体の底上げを図っており今後次世代育成を早期に着手していく。	4	・システムをしっかりと構築され検証しながら人材育成にまでつないでおられること、すばらしいと感じました。 ・教職員の次世代育成は学生を育てることと同様に力を入れるべきことだと思います。 ・異議なし ・PDCAを活用している。 ・特になし
	2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	4	システムは、学生・入学者・卒業生・実習先・就職先等の対象別、教務・就職・広報等の業務別において幅広く導入されている。学校セクション毎の情報システム化、学生の情報の管理、その結果としての業務の効率化が推進されている。	業務の効率化と同時に、学生一人ひとりの情報を一元管理することにより、学生への様々な支援や求められる人材の養成や国家資格取得に結びつけることが出来る。その学生支援の精度を今後更に高める必要があると考える為、DX推進の稼働に着手し、授業の補助教材として配布資料と動画、小テストの実施なども提供しており、出欠状況等も本人並びに保護者等にも随時確認頂けるシステムを稼働している。	4	・学生の個人情報の一元管理のリスクはセキュリティー対策だと思います。最悪のケースを想定したリスクマネジメントが必要だと思います。 ・DX推進により業務が飛躍的に効率化されますことを期待致します。 ・異議なし ・今後もシステム運用に努力がされている。 ・DXの推進により、人の負担が減ることを願っています。

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	厚生労働省による「介護福祉士養成施設指定規則」、「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設指定規則」に従い教育課程の編成方針、実施方針を定めている。編成方針や実施方針はディプロマポリシー(DP)やカリキュラムポリシー(CP)に反映させている。 修業年限に応じた教育到達目標については科目間の関係性を重視し、カリキュラムマップを作成し明確にしている。	修学2～3年間の流れや目標(教育課程)を入学前教育時から説明し、各学年時における授業開始前のオリエンテーションにて修学2～3年間、各学年時の目標を説明している。	4	・教育課程を明確にし、到達目標を数値化しているところ、また、その検証が行われているところがすばらしいと思います。 ・入学前から自らの学びの道すじを知り、目標課題を明確化することで学業が実りのあるものになると思います。 ・異議なし ・各学年時の目標、短期・長期を作成し、国試合格に向けられている。目的意識を明確にし、退学率の低下に向けた取組むために、入試時は面接を重視している。 ・特になし
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	厚生労働省による「介護福祉士養成施設指定規則」、「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設指定規則」に従い教育課程の編成をしている。 将来、業界から求められる人材に必要な知識・技術の養成についてステップアップ(階段式)形態で初年度(1年次)より段階を経て基礎から応用実践までを編成している。	近年、カリキュラムに各校独自の特色を出すことも望まれており、各学科ともに総合演習や実技指導などにて卒業生の出講や、業界また他業種の方々により講義を実施している。 初年次においては、専門教育への動機づけと準備性を高める為、他学年との合同授業を行うなど、1週間程度の導入教育を実施している。	4	・業界から求められる人材をさらに具体的に示していただけたらと思います。 ・卒業生や先輩の言葉は何よりも心に響きます。大切な場だと思っています。 ・異議なし ・卒業生の活用をしている。在校生と卒業生の交流の場となっている。 ・特になし
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	業界団体の学会・会合等への参加、業界開催の研修内容等の把握より業界や社会のニーズの把握に努め、教育に反映させている。 学校関係者評価委員構成メンバーのうち保護者や業界団体からの意見を聴取し、学校及び学科にて協議している。	社会的ニーズを教育内容に反映させるため、講義・演習にて卒業生の講義や実技指導などを積極的に実施している。 求人先の施設・治療院などからも現在の求められている知識・技能について情報収集を行っている。 現行の教育課程において概ね良い評価を頂いている。定期的に開催される評価委員会や業界団体等からの意見や社会的ニーズを卒業生などから聴取し、教育課程への反映を検討したい。	4	・業界や社会のニーズもどんどん変化していくと思うので、こちらもさらに具体化していただけたらと思います。 ・業界団体のみならず様々な社会とのつながりや学びを大切にして視野を拡げて欲しいと思います。 ・異議なし ・今後もニーズの把握をして行くシステムがある。 ・特になし
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	4	キャリア教育に対する考え方やフレームを「キャリア教育ロードマップ」として作成し、キャリア教育に取り組んでいる。 実習や学外研修で職業人としての自覚や態度を涵養しつつ、専門知識・技術を生かすためのコミュニケーション能力、問題解決能力を身につける指導を実施している。	働くための知識・技術と社会人基礎力を踏まえたキャリア教育の充実が求められている現在、コミュニケーション能力は重要なポイントであると考えている。実習前後や普段より個別面談を実施し、振り返りを行うことで教育効果を上げている。特にコミュニケーション能力に問題がある場合はその状況(状態)の把握、学生自身によるその状況の認識、それによって発生する問題点、改善方法、目標を提示しながら進めることで、一様の成果が現れるケースもある。 キャリア教育の目的である社会的・職業的自立に必要な資格取得や対人援助職としてのコミュニケーション力などの基盤を実習や演習など様々な場面で設定し教育を行っている。	4	・生涯を見通したキャリア教育の実践と性格上コミュニケーション力は不可欠だと思うので、何か数値目標とかで目標設定が出来ればと思います。 ・技術者を教育し、社会へ送り出すという使命や誇りをもって取り組んでおられることを感じます。 ・異議なし ・コミュニケーション能力の活用を十分に整えている。不足する方へのフォローアップあり。 ・対人援助職としてコミュニケーション能力は、高ければ高い程良いと思います。
	3-9-4 授業評価を実施しているか	4	学期終了時に科目毎に授業に対するアンケートを実施している。アンケートは科目担当者へフィードバックし、より質の高い教育を目指し反映させている。	評価委員会でのご意見を踏まえ、講師を含め、授業評価を実施している。 また、アンケート結果については非常勤講師へもフィードバックを行い、質の向上を図る。	4	・相互評価は効果が大いだと思います。 ・教員間の相互評価、お互いの授業を体感することも大切だと思います。 ・異議なし ・今後もフィードバックが必要。 ・特になし
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	成績評価や単位認定の明確な規定が学則や履修規定・試験規定により明文化されており、教員・学生ともに周知されている。 また学生に対しては各学期開始前のオリエンテーションにて再確認を実施している。	定期試験の結果が国家試験出題範囲の理解となるような評価方法を検討するよう心掛けている。 既に定期試験に関しては国家試験に準じた選択問題を取り入れており、客観的な評価の実施を目指しているが、思考力・表現力・文書力等の評価が難しくなる面を持ち合わせている。 認定実技審査などを実施し、外部評価者による技術レベルの評価を行っている。	4	・国家試験の分析とそれに沿った演習や実践は目標達成の為、必須だと思います。 ・異議なし ・特になし
3 教育活動	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4	学生便覧等に卒業後に得られる受験資格について明記されている。 また、養成課程目標とする資格取得のために養成施設指定規則に定められた時間数以上の授業時間を確保している。 最終学年では国家試験合格に向けた年間タイムスケジュール作成や個々の学生の弱点科目(項目等)の把握に努め、到達状況の確認、指導を実施している。	1・2年次より国家試験を意識した授業を実施している。 また、2年次では放課後学習会やオンラインシステムを活用した授業、ST(ステューデント・ティーチャー)制度を導入し、個別指導の徹底を図っている。 最終学年で実施される模擬試験等の結果より資格・免許取得への状況を個別面談を実施、指導している。	3.9	・教員の出番が非常に多く、教員の方々の多忙感を高める要因になっている様に感じますが、いかがでしょうか。 ・オンラインを有効に使用されているのがとても良いと思います。 ・異議なし ・学習会を導入している。学力強化に力を入れている。 ・特になし
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
3 教育活動	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	「介護福祉士養成施設指定規則」、「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設指定規則」の規定に基き教員人数は充足している。 新入職の兼任教員には、グループ校で講師研修、専任教員はFDミクロレベル研修や公開授業を実施して、スキルアップを図っている。 専任教員においては国家試験対策研修会など様々な研修会への積極的な参加を促している。	教育力向上に向けて、学園グループのFD研修(ミドルレベル・ミクロレベル)を受講し、より質の高い教育を目指していきたい。専門性が高く、幅広い医学的知識を必要とするため関連セミナーや学会への参加を促している。 教育理念を達成するために学科事務局組織を編成し、会議を実施し体制を整備している。 また年度初めには各部署にて事業計画を作成し共有することで組織運営を実施している。	3.9	・忙しい中でも教職員の研修時間を確保していくことが後々に生きていくと思います。 ・異議なし ・合格力向上のために取組み続けて下さい。
	3-12-2 教員の資質への取り組みを行っているか					

4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	卒業生の就職内定率について、令和5年度介護福祉士科は100%(100%)、鍼灸科は100%(94.77%)という結果を残している。()内は令和4年度	常に学生が求める就業先からの求人を得るために求人依頼を発送し、学生との面談を実施して希望就業の把握に努めている。 令和5年度は、コロナ禍による制限も緩和され対面での就職活動となったため、施設見学等を行ったうえでの活動がメインとなった。 就職活動へ早期に導き、モチベーションアップにも繋げるため、業界の先生にご協力いただきながら、業界研究の授業や就職セミナーなど、各学年、時期に応じたプログラムを実施した。	4	・内定率100%は本当に素晴らしい結果だと思います。 ・就職先とのマッチングの大切さを痛感します。より長く勤務出来るように就業前に企業をしっかり理解することが大切だと思います。 ・異議なし ・就職率の向上がある。希望者の就職が出来ている。 ・特になし ・今後1年以内、3年以内等の退職率も取得し、就職時のミスマッチなどの情報も出してもらえれば。 ・学生の間からもっと現場を見て目標を持つと合格率アップに繋がるのではないかな。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	4	国家試験の合格率は以下の通りである。 介護福祉士 令和5年度 100% 令和4年度 94. 2% 令和3年度 93. 7% 令和5年度 令和4年度 令和3年度 はり師 新卒：76.9% 77.8% 85.5% 既卒：28.6% 25.0% 9.8% きゆう師 新卒：76.9% 77.8% 85.9% 既卒：42.9% 40.0% 8.9%	入学した全ての学生に目指す資格を取得させるという学園・学科のミッションを達成すべく、個々の学生に合わせた指導体制を強化する必要があると考える。 目標達成には初年度教育の充実、また保護者の協力が必要となっている。 早期の低学力者対策(個別指導)を導入し、年末年始には対面+オンラインの授業を行うことで、学生の特性に合わせた学習機会の提供が図れた。	3.9	・ミッションの達成に尽力されている姿勢がとても感じられます。 ・介護福祉士の合格率100%素晴らしいと思います。 ・異議なし ・特性に合わせた学習提供により、取得率の向上になっている。 ・特になし ・学生の間からもっと現場を見て目標を持つと合格率アップに繋がるのではないかな。
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	4	卒業生の活躍は就業先からの評価や役職への登用、独立開業者の増加、実習指導の出来る卒業生の増加などから評価できると考える。 前年度、前々年度卒業生の動向の確認などを定期的に実施していることから把握していると考ええる。	就業先において役職への登用や起業した卒業生へ講師依頼を行い、WEBによる講義・演習等を実施している。	4	・点検項目を'把握して還元できているか'に変えた方が良いと思います。 ・貴校の卒業生はとても優秀で様々な要職を担ってくれるとくれています。 ・異議なし ・特になし
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	就職支援機能を学科内に置き、専任教員が学生への就職支援相談を実施している。	就職支援に関しては関係する法規やマナー、面接技法などを授業で指導している。 また就職に関する調査アンケートを個別に実施し、就職相談や求職依頼に活用している。	4	・専門(任)教員の配置は学生にとっても安心だと思います。 ・異議なし ・学生はどのような施設、事業所で働きたいのか。 ・アルバイトで病院等は？
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	退学は毎年、発生しているが年度によりその数は異なる。退学の理由としては学力不振が最も多いが、近年では学力不振の背景に心理的な課題や目的意識の喪失が伺える為、退学率の低減に向け様々な取り組みを実施している。 令和5年度のDO率は、介護福祉士科が2.9%、鍼灸科が5.7%の実績となった。	退学率の低減のために学生個人の特性を把握することを目的にサポートアンケートを実施している。 サポートアンケート結果は学生個別面談への活用や日々の学生動態と照らし合わせ、学生の変化を察知できるよう努めている。 近年、ストレスマネジメント(コントロール)できない学生も増えてきていることも踏まえ、スクールカウンセラーなどの専門職を活用し退学防止に向けた取り組みを行っている。実習や定期試験、また連休明けなどのメンタル不調に陥りやすい時期に個人面談を設定して、学生の状況把握を行っている。	3.1	・一番大きな課題だと思います。4%以内という目標設定も大事だと思いますが、アフターケアの実績をアピールしていくことも学校の評価につながると思います。 ・学生のみならず大人も様々な背景をもっており、メンタルケアが不可欠な時代です。社会問題として大きな課題であると察します。 ・異議なし。 ・より一層の個人面談を臨みます。 ・なぜ退学するのか。分析及び今後の対策を作る必要性が出る。 ・ストレスの感じ方が個々に違うが、スクールカウンセラーの元にどの様な相談が多いんでしょうか。 ・学力不振→合格率に 現場に出て目標を明確に。
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	学習面、メンタル面・健康面、経済的な問題などの相談を各所で受け入れる体制を整備し、有効に機能させている。必要な学生には、学内のスクールカウンセラーを利用。カウンセラーと教職員がチームとしてアプローチし、問題の解決にあたっている。	学生の多様な問題に対応するため、サポートアンケートの活用、教職員のスキルアップ研修、カウンセラーとクラス担任との連携の強化などを行う。 最近スクールカウンセラー(相談室)の利用希望者も増えており、利用によりモチベーションの向上が得られたケースも認められている。	4	・環境は整備されていると思います。 ・スクールカウンセラー(相談室)の利用が増えているのは、反面、学校やカウンセラーに対する信頼の証だと思います。 ・異議なし。 ・サポートアンケートの活用は、モチベーション向上へと繋がる。 ・特になし
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	学生の経済的側面の支援は、フィナンシャルアドバイザー研修を受けた職員によって①入学前②入学後において個別相談を実施している。学費相談を受けた学生個人に応じて、学費支払いと奨学金制度での資金のやり繰りにおいてシミュレーションを実施している。学生支援機構においては借り過ぎ防止にも努めている。 健康面については、学校保健安全法に基づき4月の健康診断の実施、必要に応じて再検査の案内を行っている。	学費支援システム・特待生選抜制度・在校生援助奨学金・学びなおし支援金など複数の学校独自の支援制度を活用し、個々の学生の状況に応じたサポートを行う。特に奨学金の借り過ぎ防止の対策と卒業学年においては就職状況も把握することを努めていきたい。健康面においては、再検査の受診率100%を目指す。	4	・環境は整備されていると思います。 ・学生の金銭的な課題は社会の縮図だと思います。金融リテラシーの向上も課題だと思います。 ・異議なし。 ・学生寮について、生活環境支援体制を今後明記する必要があるのでは。 ・支援内容の周知はどの様に行われているのか。
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか					
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか					
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか					
5 学生支援	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	本校のミッションである職業人教育や就職、学生の資格取得実現のためには学校だけでなく家庭を中心とした学校外での学生動向も把握するように努め、問題解決にあたり、保護者との連携の強化を図っている。	入学直前にオンラインによる保護者説明会を実施。学校の考え方、支援方針と体制をご理解頂き、保護者に学校との協力をお願いしている。	4	・保護者というイメージがあまりないですが、家庭との連携は、不可欠だと思います。 ・保護者の方へも学校へ足を運んでいただいたり、何か参画して頂いたりしながら共有が出来ればと思います。 ・異議なし。 ・保護者との連携を強化している。 ・特になし ・人材をもっと業界として把握したい。

	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	卒業生との(業界)連携はますます重要になってくると考えられ、学科ごとの卒後研修を充実させる必要がある。 現在、求職や開業相談、法改正に基づく変更点など様々な情報を発信している。 産学連携による再教育に関してはSNSなどを活用し、業界団体また関連職種が開催する講習会等の案内を伝達し参加を促している。	SNSなどを活用し卒業生の近況の情報収集を行い、必要に応じて卒業生への支援を実施している。 卒後教育に関しては卒業生の勤務状況や学校行事等の兼ね合いより実施できていない現状であるが、令和5年度はコロナ禍の収束状況を鑑みて、前回の学校関係者評価委員会にてコメントを頂いた回答から徐々に開催を検討する。	3.5	・卒業生が学校を支えてくれるという現実は、その通りだと思います。ますますの連携強化を図るべきと考えます。私の時は、必要な人だけ予防医学協会を紹介するなどして、取って貰っていましたよ。 ・卒業生が学校を誇りに思い、又、心のより所になっていることを感じます。 ・異議なし。 ・今後の方向性、取組みによる整備強化。 ・産学連携の一つとしてSOMPOケア教育研修部と共に取り組める卒後研修を考えてみてはどうか。
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか					
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか					
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	厚生労働省による「介護福祉士養成施設指定規則」、「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設指定規則」に従い、設備・教育用具等を整備している。 教育効果を高める為に必要な、ICT環境の整備を進めている。	教育効果とその必要性を検討し、実習施設の拡充、教育用具等の充実をさらに図る必要がある。 教室の有線LANおよびWIFI、天井吊り下げのプロジェクトターを整備。	4	・プロジェクト―は必須だと思います。整って良かったです。 ・異議なし。 ・視覚強化への取り組みあり。 ・特になし
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	新型コロナウイルス感染防止による影響により海外研修は実施できていない。学外実習においても影響は受けているものの限られた範囲内での充実した実習プログラムや代替え学内実習にて対応を行っている。	学外実習は、新型コロナウイルスによる制限も緩和され、通常の形式での実施に戻った。海外研修は外務省より渡航中止が発令されたためともに中止とした。	3.9	・この点検評価を立てたのでしたら、実施せずの評価は難しいと思います。 ・是非海外研修が再開するとうれしいです。 ・異議なし。 ・今後の状況に合わせた実習への取組みがある。 ・特になし
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	想定される災害に対する防災体制は整備されており、緊急連絡メールシステムが設置されている。消防訓練は、消防署員立会いの下で年1回行っており、評価を翌年に生かし改善している。緊急地震速報対応訓練も行っており、AEDは設置済みで月1回の点検を行っている。また、損害保険などにも加入している。	緊急時により近い消防訓練を行うため、各担当者の役割を越えた訓練を通して安全管理体制を強化する。また年令和5年度は教職員のうち役職者全員が防火管理者の資格取得した。令和6年度は学科長複数名が安全衛生推進者の資格取得も受講しており、次年度からは新たなメンバーをリーダーとして着任予定。 教職員は、AED利用講習会は受講しているが、緊急時に活用できるかどうか定期的な研修を検討している。	4	・防災訓練、心肺蘇生なども含めて年1階以上の研修は必要だと思います。 ・震災、暴風雨etc.災害が後をたたない今、有事の為にどう動くかというBCPが大切です。 ・異議なし。 ・特になし
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか					
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	兵庫県専修学校各種学校連合会の規定に基づき、募集開始時期、募集内容(入試日程・入試制度・特待生試験・学費明記など)を決めている。入学案内は、三田校と共通のもので、学校・学科・設備・在校生、卒業生紹介・就職支援や実績・オープンキャンパス等が理解できる様に編集し、それを基にホームページも整備している。個人情報取扱委員会を設置し情報を管理している。	モチベーションの維持・強化をするために、入学前にはオープンキャンパス→入学前教育を実施し、入学後の授業や学生生活、職業観を意識した形での教育を実施し、スムーズに専門教育に取り組める様していく。 また同時に職業に関する啓蒙活動にも取り組んでおり、業界と連携し、中学生のトライやるウィークでの介護職経験の実践の機会を提供している。今後一層拡大していきたい。	3.9	・職員の中でもトライやるウィークでの学びが今の職業に繋がったということを聞きます。1人でも多く本業界に関心を持って欲しいと思います。 ・異議なし。 ・特になし ・+αの何かがあればすすめやすい。 働きながらや+〇〇の資格が取れるetc.... ・学生の間からもっと現場を見て目標を持つと合格率アップに繋がるのではないかと。昔と違って整骨院も多いのでそこにアプローチかけるといいかと。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に 行っているか					
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通りに選考をしている。各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。また、選考終了後は判定会議により可否を確定する。面接、提出書類、選考試験の結果を踏まえ、将来医療・福祉の業界で働くことに適性があるかを総合的に判断している。	将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面談の比重を高くしている。結果として学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。 また、AO入試を導入し、学力に捉われず、キャリア教育の一環として、やる気を重視した入学選考を継続する。	4	・個人面談、集団面接など比重を高くしていくことは、正解だと思います。 ・明確な意欲や目標は一過的な学力以上の力を発揮すると思います。 ・異議なし。 ・特になし
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	学納金は、各学科の教育目標達成を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費、実習費、施設運営費等に当てられている。 毎年、各学科において教材及び担当講師の見直しを行っており、諸費用の無駄な支出をチェックしている。各学科から提出された案を元に運営会議にて検討され、決定をしている。 また、入学辞退の取り扱いについては、募集要項に明記して対応している。	入学以前の募集要項や説明会において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者等に関しては年間支出計画が立てやすい。 また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンス(給付奨学金含め)や教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたつてのアドバイスを実施している。	4	・支出の見直しも大変な作業ですが、効果は大きいと考えます。 ・入学辞退が少ないと聞き安心致しました。辞退が多いと計画をくつがえされることとなり、大変かと思います。 ・異議なし。 ・特になし
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取り扱いを行っているか					
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	5ヶ年を見越した収支計画は中長期的な視点で考えているため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていく。	安定した運営を継続的に行うため、各学科における1学年の募集定員、介護福祉士科40名、鍼灸科30名、精神保健福祉士科40名、社会福祉士科40名の合計150名の定員充足率100%を目指し、退学率4%以内を目指す。また令和6年度からは4学科の募集活動が継続予定である。	4	・安定した収入が事業運営に不可欠ですので、まずは学生の確保と退学者の減少をお願いします。 ・異議なし。 ・特になし
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	5ヶ年を見越した収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の機会でチェックするためにより現実にも即した予算編成になっているものとする。学校の財務体制を管理し、健全な学校運営ができるように予算・収支計画は有効かつ妥当な手段として利用されている。	予算→四半期予算実績対比→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。	4	・経営は本当に厳しいものだと思察します。細やかなチェックで改善することも多いと思います。 ・異議なし。 ・特になし
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					

	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	私立学校法に基づく業務並びに財産の状況について監査を実施している。現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考える。監査を有効に実施するため、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	内部・外部両監査時における改善意見について記録し、適切かつ迅速に対応する。	4	・内部・外部監査で出た意見を一つ一つクリアしていくと必然的に組織力が向上していくと思います。 ・異議なし。 ・特になし
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	財産目録、貸借対照表、収支計算書、監査報告書など財務情報公開の体制整備は出来ている。	当法人の財務情報公開に関しては、常務理事が統括し、事務局長が責任者として担当する。また、事務担当者を置いて現場対応を行っている。＜公開書類＞1. 財産目録2. 貸借対照表3. 収支決算書4. 事業報告書5. 監査報告書	4	・情報公開資料作成は神経を使う作業だと思います。大変お疲れ様です。 ・異議なし。 ・HPIにアップしている。 ・特になし
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、整備されている。カリキュラムや教員要件はしっかりチェックし、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する研修を実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	4	・監事監査が形が目的にならないことが大切です。 ・異議なし。 ・特になし
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	学内で個人情報保護規定を定め、個人情報取扱委員会が中心となり運用している。教職員に対しては、個人情報保護責任者は認定CPOアカデミック講座を通して、学校等における個人情報管理責任者として必要となる知識を毎年習得。教職員は、認定CPAアカデミック講座を通して学校等における個人情報取り扱い従事者として個人情報を取り扱うために必要となる知識を習得した。それぞれ更新講習に取り組んでいる。学生と講師に対しては、オリエンテーションなどにおいてITリテラシーについてや個人情報保護について冊子を用いて伝えている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、ホームページ上に明記している。教職員はもちろん、学生と講師に対しても、オリエンテーションなどにおいてITリテラシーについてや個人情報保護について冊子を用いて伝えている。	4	・ITリテラシーの向上は組織の死活問題につながります。サイバーセキュリティや個人情報漏洩などに充分機をつけて下さい。 ・異議なし。 ・特になし
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	年1回自己点検・自己評価を行い、学校関係者評価委員会で意見収集し、その結果をホームページに掲載している。	学校関係者評価結果に基づき短期的・中長期的課題の整理を行い、改善に取り組む。	4	・PDCAサイクルをそれぞれの部署で回し、公表し、説明していく流れの確立は、成熟した組織の使命だと思います。 ・学校評価の体制をしっかりと確立され、意見も反映して下さっていることが素晴らしいと思っています。 ・異議なし。 ・しっかりと実施している。年2回であり、現実的である。 ・意見収集しっかりと行われています。
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか					
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	教育情報については、自己評価・自己点検の結果等と合わせてホームページに掲載している。	ホームページに掲載している教育情報については、必要に応じて更新をする。	4	・生きたHPIにしていくことが大切です。 ・異議なし。 ・特になし
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	教育資源を活用した社会貢献については、近隣の福祉施設、高等学校、関連団体とある程度の連携・交流は出来ている。	県内の中学校、高校において、職業理解を深める為の授業の依頼を受け、学科教員による授業を複数実施。また、神戸市立の中学校の「トライやるウィーク」を受け入れ、中学生の職業体験を実施。	4	・社会貢献、地域貢献を教育活動、広報活動の一環と捉え、無理のない範囲で計画的に行われるよう整備して行くことだと思います。 ・トライやるウィークの受け入れ等は社会貢献から自らにも生かされると思います。 ・異議なし。 ・実施出来ている。 ・特になし
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	10-37-1 学生ボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	コロナ禍、活動制限により積極的には学生の参加は見合わせたが、今後は各種の行事などへの参画も増えてくることが予想される。コロナ禍以前は積極的に対人援助職に求められるコミュニケーションスキルの向上に役立つため、学生への参加を促している。	地域防災ボランティアや地域健康増進推進事業、実習前施設レクリエーションへの参加や地域清掃を実施している。具体的には、11月に実施される「神戸市北区地域ふれあいまつり」や1月の「橘地区防災のつどい」などの行事について、学生への参加を促している。	3.9	・地域と共に歩み、地域に開かれた学校は、地域に守られていくと思います。 ・異議なし。 ・実施出来ている。 ・特になし(コロナ禍以前の取組みを期待します)